

レアメタル等リサイクル資源特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年9月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(3.5+4.5)/2=4$

4.0

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	環境・リサイクル関連企業の製造品出荷額	97%	4
2	特区に搬入されたリサイクル対象となる家電等金属系使用済製品(廃基板等の副産物を含む。)の搬入量(国内、アジア地域)	70%	3

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 0 + 4 \times 1 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 2 = 3.5$

3.5

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.5

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(3.3+3.3+4)/3=3.5$

3.5

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.3

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.3

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.3

・あきた企業立地促進事業の採択数は前年度の4件から1件に減少しているが、この原因は何か。秋田県中小企業融資制度の実績がないことと合わせて分析をしてみてもどうか。

・「レアメタル等リサイクル戦略推進会議」の開催、廃太陽光パネル及び使用済みリチウムイオンバッテリーへの取組の推進による、更なる発展が期待される。

・家電等金属系使用済み製品の搬入は、かなり少ない。今後、廃太陽光パネル及び使用済みリチウムイオンバッテリーの発生量の増加が見込まれているとのことだが、希望的な観測か、確実な見込みとなっているか、精査されたい。

・金属系使用済み製品の金属リサイクル拠点形成は、意欲的な目標を設定して取り組んでいることが評価される。概ね着実に環境・リサイクル関連企業の出荷額を積み上げてきた中、R4年度が微減となった要因を把握され、今後の対応策に着実に結び付けてほしい。金属系使用済み製品の搬入量指標については意欲的な目標を掲げられているが、目標値と実績値との隔たりも懸念される。今後、着実に拠点形成を進める道筋の検討を期待したい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.3

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4+3.5+4.3 \times 2) \div 4=4$

4.0

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。